

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 23 日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究（C）（一般）

研究期間：2009～2012

課題番号：21592830

研究課題名（和文） 看護師が行う子どもへのプレパレーション実践導入モデルの検討

研究課題名（英文） The practice introduction model of preparation for children in pediatric nursing

研究代表者 松森 直美 (MATSUMORI NAOMI)

県立広島大学・保健福祉学部看護学科・教授

研究者番号：20336845

研究成果の概要（和文）：

小児医療に携わる看護師に行った 2005 年の調査では「プレパレーションはいつも必要」との回答は 35.2%で、2010 年にはこの回答が 58.6%に増加した。ドイツでの同様の調査では「子どもは説明を受ける権利を有する」は両国で高い割合だったが、ドイツの方が日本より長期的な視点でプレパレーションを実施し、日本はドイツよりも業務改善の必要性を認識していた。自国の看護実践や改善点を他国の医療状況や文化を考慮した調査から学ぶ必要性が示唆された。2012 年にはプレパレーションの実践を含む小児看護ケアモデルを出版し、この本を活用した実践講座を同年 10 月に開催した。

研究成果の概要（英文）：

An original questionnaire was distributed to nurses working on pediatric wards in Japan in 2005. Most aspects of psychological preparation for children in hospital were 'always' provided by 35.2% of the respondents. The same questionnaire was distributed to nurses working on pediatric wards in Japan in 2010. A higher proportion of Japanese respondents (58.6%) answered that psychological preparation is "always necessary" for children in hospitals. The same questionnaire, translated into German, was distributed to nurses working on German pediatric wards in 2010. A large majority of German and Japan respondents strongly agreed that children have a right to informed consent. German nurses expressed a longer-term viewpoint on the effects of preparation than Japanese nurses. Japanese nurses recognized a greater need for improvement in their duties than German nurses. The results suggest that we should consider our own country's nursing practices and need for improvement, but also learn from studies of other countries to address each culture and medical situation appropriately. I published a children care model involving preparation practice in 2012 and held the seminar with this book.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	300,000	90,000	390,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：医歯薬

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：小児看護学、プレパレーション、小児看護ケアモデル

1. 研究開始当初の背景

1990年よりインフォームドコンセントの考え方が医療の場に普及しはじめ、1994年子どもの権利条約への批准を契機として、小児医療の場における子どもの権利や療養環境の検討が進められるようになってきた。1999年日本看護協会は小児看護の業務基準の中で「子どもの理解しうる言葉や方法を用いて、治療や看護に対する具体的な説明を受ける権利がある。」とその重要性を示している。また、木内ら（1998）はスウェーデンにおけるプレイセラピーの実際を紹介し、「プリパレーション」を「子どもへのインフォームドコンセントを指す言葉」と定義している。以上の経過から子どもに対するわかりやすい治療や看護の説明が「プレパレーション」または「プリパレーション」として認知され現在に至っている。医療処置・検査を受ける子どもへのプレパレーションの実際や研究は国内で年々増加しており、その主な文献は2002年以降から急激に増えている。しかし、道具を使った事前の説明のみを指しているとの誤解も生じており、各文献におけるプレパレーションの定義や理解が様々で各研究成果が総力とならない点で課題と考えられた。プレパレーションに関する研修会を開催した際にも、参加者である看護師から「どのように実践に導入すればよいか知りたい」、「効果が知りたい」、「実施の工夫や実践例をもっと知りたい」、「道具を使うことと聞いていた」等、プレパレーションに対する理解や具体的な看護実践に即した形での導入方法を効果と共に提示することが求められていることが明らかとなった。

2. 研究の目的

看護師のプレパレーションに関する現在の認識を明らかにし、看護師が行うプレパレーションの定義と実践例の提示および効果の検討、ケアモデルをベースとした臨床への導入モデルの考案、研修会の実施と評価を行う。

3. 研究の方法

- (1) 看護師を対象とした国内外におけるプレパレーションの実態調査
- (2) 看護師が行うプレパレーション実践導入モデルの考案
- (3) プレパレーション講習会の開催と評価

4. 研究成果

(1) 2005年と2010年の小児医療に携わる看護師を対象とした全国調査の結果を比較

すると、医療処置を受ける子どもの心理的準備の必要性について「常に必要」と回答する割合は、35.2%（2005）から58.5%（2010）に、子どもへの説明方法として「人形・玩具を用いる」割合も、20.0%（2005）から40.1%（2010）に増加している。しかし、2010年の調査では、成人と小児の混合病棟の看護師では「人形・玩具を用いる」との回答は34.3%で、小児病棟の看護師の50.7%より少ないことも明らかとなった。（図1）

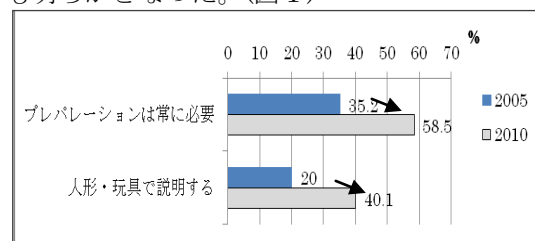


図1. 看護師のプレパレーションに対する認識

(2) プレパレーションの実践の理由として、ドイツの方が日本より「情緒的発達を促す」「看護の質の向上」などの回答が多く、日本は「子どもより親に説明した方がよい」「説明によって不安になる」との回答がドイツより圧倒的に多い。したがって、ドイツの方が長期的視点で子どもの能力を尊重した実践がなされており、日本では業務改善が求められており、先の課題が示唆され、子どもと家族の権利保護の視点で看護実践を行う本来の意義を理解してプレパレーションを導入することが急務となっている。（図2）

(3) 2000～2002年の研究成果を発展させてプレパレーションの実践を含む24項目の簡易版ケアモデルを作成した。これを活用した実践集を「小児看護ケアモデル」（へるす出版）として2012年7月に発刊した。さらに、これを活用した第1回研修会を2012年10月に開催した。参加者に対しケアモデル・チェックリストによる各項目の実施頻度を調査したところ、ほとんどの項目において受講前より受講後に改善がみられた。また、講習会で他院と情報交換できたことや各所属病棟で講習会の内容を活用したい等、講習会の意義が明らかとなった。

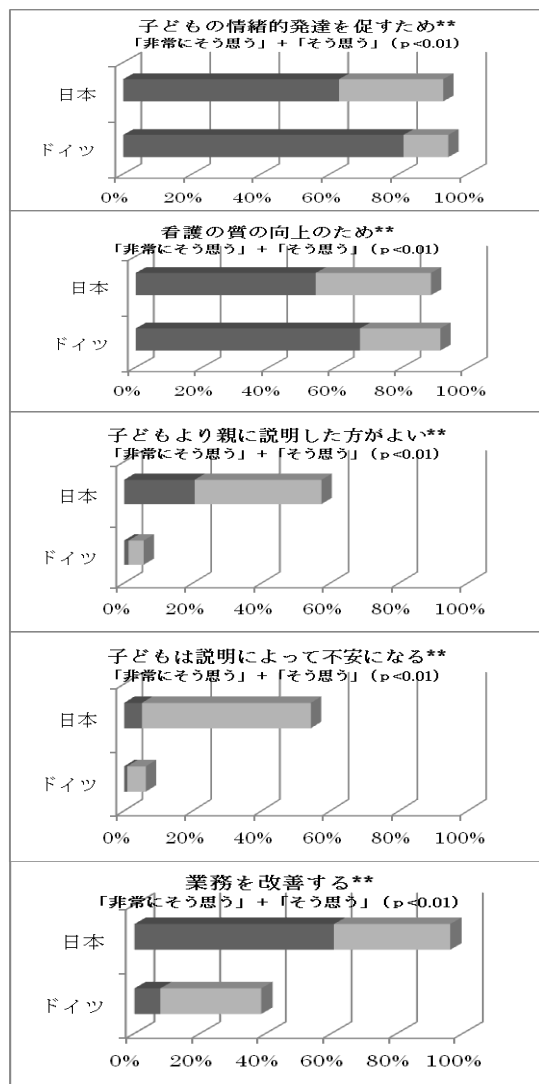


図 2. 日本とドイツのプレパレーション実施の理由に関する認識の差異

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

- ① 勝間裕美子, 松森直美: 中学 3 年生の病院・医師・看護師に対するイメージと要望に関する調査, 小児看護, 33 (2), 260-264, 2010.(査読あり)
- ② 松森直美: 病気の子どもの検査・処置における親の付き添い - ドイツの社会保障・医療制度から学ぶ -, 小児看護, 34(7), 847-853, 2011. (査読なし)
- ③ 薦田彩絵, 松森直美: 子どもに対する血圧測定のプレパレーションの効果に関する検討, 日本小児看護学会誌, 20 (1), 120-126, 2011. (査読あり)
- ④ 松森直美, 蝦名美智子, 杉本陽子, 檜木

野裕美, 佐藤洋子, 岡田洋子, 今野美紀, 高橋清子, 橋本ゆかり: 手術を受けた子どもへのプレパレーションに関する親の意識, 日本小児看護学会誌, 20 (2), 1-9, 2011. (査読あり)

- ⑤ Michael Isfort, Naomi Matsumori, Roland Brühe: Die Reduzierung von Ängsten von Kindern vor Untersuchungen und Operationen, kinderkrankenschwester 30. Jg. Nr.9, 378-386, 2011. (査読あり)
- ⑥ 松森直美, 笠置恵子: ドイツの看護教育, 人間と科学, 13(1), 41-49, 2013. (査読あり)
- ⑦ Naomi Matsumori, Michael Isfort: Psychological preparation practices for children undergoing medical procedures in Japan and Germany Open Journal of Nursing, 3 (2) doi:10.4236/ojn.2013. (掲載予定) (査読あり)

[学会発表] (計 5 件)

- ① 松森直美, 蝦名美智子, 鈴木敦子, 檜木野裕美, 杉本陽子, 岡田洋子, 佐藤陽子, 今野美紀, 高橋清子: 手術を受けた子どもの親へのプレパレーションに関する意識調査, 日本小児看護学会第 20 回学術集会, 講演集, 207, 2010, 6.26, 神戸.
- ② 松森直美, 蝦名美智子, 鈴木敦子, 檜木野裕美, 杉本陽子, 岡田洋子, 佐藤洋子, 今野美紀, 高橋清子, 橋本ゆかり: 手術を受ける子どものプレパレーションに関する医療者への意識調査, 第 30 回日本看護科学学会学術集会プログラム, 78, 2010, 12.3, 札幌.
- ③ Naomi Matsumori: Problem über den psychologischen Vorbereitungen zur Zeit der Inspektionsmaßnahmen zu einem Kind für die japanische Kinder-Pflege, 県立広島大学・ドイツ・NRW カトリック大学国際交流学術集会. ドイツ・Aachen 市, 2011, 2.10.
- ④ 松森直美: 医療処置を受ける子どもと親への心理的準備の実践状況と今後の課題, 第 31 回日本看護科学学会学術集会講演集, 512, 2011, 12.3, 高知.
- ⑤ Naomi Matsumori: Psychological preparation practices for children undergoing medical procedures in Japan and Germany, the 9th International Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery, Program & Abstracts, 111, 2012, 7.1, Kobe.

〔図書〕（計 2 件）

- ① 松森直美, 蝦名美智子編著：小児看護ケアモデル実践集－看護師が行う子ども目線のプレパレーション－, へるす出版, 2012, 253.
- ② これならできるプレパレーション－ケアモデルを用いた実践例－, 小児看護 5 月号, 36(5), へるす出版, 2013, 127.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松森 直美 (MATSUMORI NAOMI)

県立広島大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：20336845